

活 動 報 告「富士塚巡り(第2回) 音羽富士・護国寺と鳩山会館の見学」

■開催日時 2024年11月7日(木) 8:45~12:30

■参加者 20名

■はじめに

立冬の日、第2回富士塚巡りが開催されました。5月2日「東村山駅から荒幡富士まで」に続くものです。今回は東京都文京区の護国寺周辺の散策です。江戸・大正時代の歴史を訪ねました。

■コース概要

8:45 所沢駅とこてらす集合 9:00 ごろ西武池袋線準急元町・中華街行きに乗車(日中まで運行ダイヤが乱れていた)⇒小竹向原駅にて有楽町線新木場行き電車に乗換え ⇒護国寺駅到着・下車⇒10:10 ごろ護国寺境内音羽富士(登拝)⇒護国寺観音堂(見学)⇒音羽通りを経由 ⇒12:00 ごろ鳩山会館(見学)解散

■担当

Cグループ 荒幡千鶴子、粕谷徹、小林典子、白石螢子、小暮恒二、茂出木正和

■散策記録

□所沢駅とこてらす 冬の訪れが感ぜられる冷え込みの朝 20名が所沢駅に集合。参加者の確認、担当者の紹介、注意事項の伝達が行われた。運行ダイヤが乱れており当初計画は若干変更された。

□音羽富士登拝 江戸名所図会に取り上げられた江戸庶民に大評判であった富士塚に登拝した。資料によれば文化14年(1817)に築かれたとある。富士塚に登る者は富士山の修行実践等の登拝体験ができると考えられ、庶民にはなかなか体験できない富士山登頂と同じ功德を得るとされ江戸周辺で流行る。

□護国寺観音堂見学 護国寺僧侶より丁寧な説明を得た。護国寺の創建、ご本尊さま(如意輪観世音菩薩像)、観音菩薩の変身三十三身の像、江戸元禄時代の観音堂の建築・工芸、寄進物等についてであった。

観音堂は明治維新・関東大震災・戦災に襲われながら姿を変えず江戸の面影を今に伝える貴重なものです。

観音堂は元禄10年(1697)落慶供養の式典が挙げられたもの。昭和25年国指定重要文化財となる。

お話で興味深いものは江戸享保2年(1717)神田橋外にあった護持院が焼失し、護持院は再建が許されず、護国寺境内に移されたとの話。護国寺・大仏は筑波山大権現の別当・護持院から移されたもの。さらにはその後の明治維新の神仏分離・廃仏毀釈の時代には廃寺の危機があったとの話も大変面白いものであった。

□音羽通り 朝の冷え込みが嘘のようなポカポカ陽気となる。絶好の散策日和となった。

護国寺は五代将軍徳川綱吉が生母桂昌院の発願により天保元年(1681)創建された。のちに將軍家の祈願所となり、將軍が度々参拝し護国寺は繁栄した。音羽の地は護国寺の門前町として発展した。護国寺は真言宗豊山派の大本山。

□鳩山会館 鳩山家の第 52 代内閣総理大臣鳩山一郎が大正 13 年（1924）建てた歴史的建造物の洋館。戦後政治史の舞台の一つとなった。庭園には秋の青空の下見事な薔薇が咲き誇っていた。

庭園で集合写真を撮影し、参加者が自由に見学するため一旦は解散する。その後玄関ホール脇の応接室にて館内案内ビデオを鑑賞し、洗練された雰囲気建物内の見学をした。

鳩山家は鳩山和夫、一郎、威一郎、由紀夫と政界に華麗な歴史を刻んできた。和夫の妻春子は共立女子学園創立者の一人、一郎の妻薫は共立女子学園理事長を勤める。

洋館 2 階には一郎・威一郎・一郎の妻薫のそれぞれの記念室があり、貴重な品々が展示されている。

■おわりに

鳩山会館をあとにして、音羽界限には小ぶりの飲食店しかなく、参加者は思い思いの店で懇親を深めた。私は音羽通りの趣のある蕎麦屋に入り 4 名で食事を摂りました。伝統ある音羽通りに客足が絶えない和菓子店がありました。家にお土産を買い、自宅で美味しい江戸の味を楽しむことができました。

皆さまのご協力により無事に富士塚および護国寺周辺の楽しい散策ができました。有難うございました。

以 上



音羽富士

護国寺





観音堂（本堂）で丁寧な説明をうける

鳩山会館

